

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ全体としての理念がある。 ・御利用者の安心した生活を支えていく独自の理念がある。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の安心と安らぎのある暮らしを目指していく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・グループとしての理念と独自の理念があり、サービス目標をたてて職員間で統一したケアを図っている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス目標をたて、カンファレンスで話し合い取り組んでいる。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌や家族会で説明している。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・家族会にて取り組み等を伝えていく。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩や隣接するケアハウスの喫茶に出かけ、お話等をする機会がある。 ・ケアハウスより建物周辺の草引きに来てもらっている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩やゴミ出し、ケアハウスの喫茶に出かけて行く。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・森林ウォーキングや隣接する老健、ケアハウスの行事などに参加している。(盆踊り等) 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・小、中学校の資源回収には立ち寄ってもらう。 ・老健やケアハウスの行事に参加していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・事業所として、研修受け入れや見学、説明を希望に応じて行っている。	○	・地域の方との関わりを持ち、認知症の理解を深めていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価を全員で行い、ケアの向上にむけてカンファレンス等で話し合っている。	○	・カンファレンスにて評価結果の報告、改善部分は話し合いをする。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・取り組みや現状報告をして意見を引き出していく。	○	・運営推進会議にて出された意見をサービス向上に向けて取り組んでいく。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・運営推進会議を機に担当者とは連携を取る様に取り組んでいる。	○	・積極的に伝え、サービス向上に努めていく。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・必要な方には活用できるよう支援していく。	○	・成年後見制度は活用されている。 ・権利擁護制度に関する勉強会を実施して理解を深めていく。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・委員会や勉強会で学ぶ機会があり、虐待防止に努めている。	○	・勉強会等を実施し、理解を深めて虐待防止に繋げていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・家族の不安や疑問点を十分理解した上で説明し、理解納得して頂く。	○ ・御利用者や家族の立場に立った十分な説明、相談をしていく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・利用者の態度や言葉から不安を察し、その都度話し合っていく。	○ ・利用者の不穏状態は何が原因なのかを考え適切な対応をしていく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・利用者の生活については面会時にその都度報告している。 ・小口現金については月末締め、月始めに説明、サインを頂き使用した分を預かる。	○ ・月始めに月間予定表を渡している。 ・面会時には生活の様子についてをその都度報告している。 ・フロアーに写真等を掲示し見て頂いている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族会の前にアンケートで意見を出して頂き、家族会で話し合いを行っている。	○ ・家族会で家族同士で話し合う時間を取り意見を出していただく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・週1回の運営会議や月1回のヤングの会があり意見交換ができる。	○ ・全体カンファレンスにて勉強したり、全員が意見を出せる機会を作っている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・必要に応じて勤務調整を行っている。（行事等）	○ ・行事や体調不良の時等は話し合い調整している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・異動は最小限に抑え、馴染みの関係を大切にしている。</p>	<p>○</p> <p>・ユニット間の異動はまとめて行うのではなく、少しずつ交代で行う。</p>
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・月1回の勉強会や委員会・研修会等に段階に応じて参加できる。</p> <p>・報告書等に勉強していききたい項目の希望が表せる。</p>	<p>○</p> <p>・新人教育はエルダーが行い理解を深めていく。</p> <p>・段階に応じて研修会に参加できる。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・グループホーム協議会でお互い情報交換ができる。</p> <p>・事例検討、講演会等を通じサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>・相互訪問等で情報交換でき、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>・悩み等を把握できるよう努めている。</p> <p>・誕生日会や親睦会等があり、気分転換が図れる。</p>	<p>○</p> <p>・日常的に短時間の休憩を取り気分転換を図っていく。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>・委員会や勉強会に自由に参加できる。</p> <p>・学んだ事を職場に持ち帰りケアに生かせる様話し合っている。</p>	<p>○</p> <p>・勤務を調整し勉強会等に参加できる。</p> <p>・カンファレンスにて話し合いケアに生かしていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・事前に情報収集する。 ・ゆっくり関わる時間を持つ	○ ・傾聴する等して時間をかけて利用者との関わりをもつ。 ・得た情報は職員間で共有していく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・家族とよくコミュニケーションをとり本人の事を良く聞く。	○ ・様々な情報を知り、相談していく。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・家族や本人とコミュニケーションをとり、必要としている支援内容等を知る。	○ ・相談時の状況を把握し、必要としているサービスの提供を行う。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・本人のこれまでの生活を把握した上で希望を聞きながらケアしていく。 ・戸惑いがみられる場合には常に寄り添い、傾聴、声掛けしていく。	○ ・本人と多く関わりを持ち、馴染める様に努める。 ・本人の事を知り、常に寄り添う。 ・その都度家族に相談していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・一緒に生活しながら、コミュニケーションをとり、教えてもらう機会や助けてもらう機会を作っていく。	○ ・一緒に生活していく中で、人生の先輩とし色々教えてもらう機会を作る。 ・常に「ありがとう」「助かるわ」と声をかけていく。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・利用者の状態報告をする。 ・行事等に参加していただく。	○	・面会時には状態報告をする。 ・行事等と一緒に参加していただく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・ホームでの生活の状態を面会時に報告をする。	○	・面会時には常に状態報告と本人の思い等を伝える。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・知人等の訪問時にはゆっくりくつろげる様に配慮している。	○	・訪問時には間に入り、会話がはずむ様支援している。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・食事の席やソファの座る位置等を利用者同士が関わり合えるように配慮し、支援している。	○	・仲の良い関係が築ける様に席替え等をし、工夫している。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・家族と連絡を取り合っていきたい。	○	・定期的に連絡を取っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・家族から情報収集し、本人の意向等を日々の暮らしの中で把握していく。	○	・常に本人とコミュニケーションをとりつつ、家族からも情報を得ていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・バックグラウンドやアセスメント表を使い把握していく。	○	・本人とのコミュニケーションの中で把握し記録していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	申し送り、カルテ等を使い把握していく。	○	・カルテに記入し、情報を共有していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・家族の希望を取り入れ、ケアカンファレンスで、話し合い、介護計画書を作成する。	○	・本人の出来る事や気づきを記録する。又、家族の希望を取り入れカンファレンスにて話し合い、介護計画書を作成していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・変化に応じて見直しをし、新たな介護計画書を作成している。	○	・変化に応じて即、家族や必要な関係者と話し合い介護計画書を作成していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎日、カルテを記入し、状況を把握している。	○	・情報を共有し、ケアカンファレンスにて介護計画書の見直しをしていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・訪問看護が入っており、医療処置、医師との連携が常にとれている。	○	・点滴や処置は看護師にて行い、24時間体制で連携がとれている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・ボランティアに来て頂いている。 ・警察・消防とは連携がとれている。	○	・ボランティアは毎月来て頂いている。 ・警察や消防は常に連携が取れている。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・必要に応じて、訪問理美容サービスを利用している。	○	・本人の体調等に合わせて訪問理美容サービスを利用している。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通じ連携をはかっている。	○	・成年後見制度を利用し、包括支援センターと協力している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・系列の医療機関で受診できる。 ・家族の希望の医療機関に受診できる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護が週1回あり、常に連携が取れている。 ・必要に応じて医療機関で受診することができる。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・系列の医療機関で受診できる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・FAXで報告、相談、受診ができる。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ看護師にすぐ相談できる。 ・週1回の訪問看護に相談できる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・24時間体制になっており、すぐ相談できる。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	<ul style="list-style-type: none"> ・情報交換や相談できるように連携がとれている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護が間に入り、相談することができる。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の状態に合わせて家族と医師と繰り返し話し合い情報を全員で共有することができる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・書面での情報があり、共有している。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ医、看護師と変化に応じてその都度相談することができる。 	○	状態変化に応じその都度、相談し検討していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・十分な話し合いや情報交換を行っている。	○	・十分な話し合いや情報交換を行っていく。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・トイレ誘導はそっと声をかける様にしている。 ・職員は利用者の不快なる言葉を理解し、声かけに注意していく。	○	・居室の入り口にはのれんを掛けてトイレ利用の目隠しにしている。 ・トイレ誘導はそっと行っている。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・重ね着が多い利用者には、様子を見つつ、声かけにて服を脱ぎ温度調節していただく。	○	・脱いだ洋服も目の届くところに置き、又、自由に着て頂く。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・食事に時間のかかる方はゆっくり本人のペースにて食事していただく。 ・動きの多い方には色々な作業（家事）を手伝っていただいている。	○	・一人ひとりの状態に合わせて、常に見守り、そっと声をかけていく。 ・その日の体調にも配慮していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・グループ内の理美容院を利用し、本人の望む髪型のように支援している。	○	・本人の望む髪型になるように美容師に説明して行う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・本人に合わせ一緒に準備や片付けを行っている。 ・好みのメニューや季節の物を取り入れている。	○ ・時には、外食や喫茶店、出前等楽しんでいる。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・状況に合わせておやつ時に希望を聞く工夫をしている。(コーヒー等)	○ ・ヤクルトの宅配を取り入れている。 ・好きなものを理解し、ストックしている。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・排泄チェックし、利用者パターンで排泄支援している。	○ ・利用者の1日の流れを理解し、トイレ誘導する。 ・おむつは随時見直しその都度家族に報告している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・利用者に合わせてゆっくり入浴していただく。	○ ・状況に合わせて入浴していただく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・日中の活動(散歩、家事手伝い、アクティビティ等)を利用者に合わせて促し、夜に眠れる様に支援している。	○ ・眠れない時には付き添い、一緒に過ごす。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・利用者に合った役割を持って頂く様にする。(例：野菜を切る、モップ等で掃除する等)	○ ・日常生活で出来る事を見つけ、手伝って頂くようにする。 ・感謝の言葉「いつもありがとう」等の声掛けも忘れずに行う。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・小口現金として預かりがあるが、本人が使える支援は実施していない。	○	・今後買い物、外食時の支払いをして頂く様支援していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・利用者に合わせ、散歩やゴミ出し等を行っている。 ・天気の良い日はベランダにてお弁当を頂く等の工夫をしている。	○	・利用者に合わせて、散歩、外食、喫茶店等に出かけている。 ・天気の良い日はベランダにてお弁当を食べる。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・家族の協力のもと、墓参り等出かけられる機会がある。	○	・利用者の思いを家族に伝えて協力して頂く。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望に応じ何時でも電話をかけた取り次いだりする支援体制はある。	○	・家族と相談し、いつでも電話できる。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・面会時は居室やリビングにてゆっくり楽しめる様ソファーやテーブルを整え工夫している。	○	・訪問時はゆっくりできるように椅子や準備している。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・委員会等で勉強し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	・カンファレンスにて話し合い理解し、拘束しないケアに努めている。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・安全性の為鍵をかけているが、外出の意思表示があれば付き添いし外出をする。	○	・希望があれば付き添い外出をしている。 ・外出しない場合でも、他のフロアに遊びに行っている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・キッチンから居室が見渡せ、常に利用者の様子が把握できるようになっている。 ・ふらつく利用者が移動する場合にはすぐ付き添いを行う。	○	・業務を行いながらも、さりげなく全員の状況把握はできている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・その時の状況に合わせ管理方法も変えている。 (例：石鹸を食べようとした為ハンドソープに変更) ・刃物類は夜間鍵のかかる引き出しで保管している。	○	・一人ひとりの状況を把握する。又、その都度対応し、検討している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・転倒が多く、大きな事故に繋がる為、ベット柵や車椅子、歩行器に鈴等を付けてすぐ状況が察知できる様に工夫している。	○	・事故発生後にはヒヤリハットを記入し、対応、検討し防止に努める。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・勉強会や全体カンファレンスで緊急時の対応について学び、話し合いマニュアルを確認する。	○	・全体カンファレンスにて連絡、対応について周知徹底を図る。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・非難訓練を消防署の立ち合いにて年2回行っている。又、定期的に自主訓練を行っている。	○	・定期的に利用者と共に避難経路の確認、備品の点検を行う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の行動を把握する様努めている。 ・家族に転倒の危険がある事、又、その対応策について報告している。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ベットの配置を工夫する。 ・ベット柵、歩行器、車椅子等に鈴を付ける等の工夫をする。又、状態に合わせてその都度話し合い対応する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・少しの変化でもカルテ記入し、早期発見に繋げる。 ・看護師に相談し、受診している。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ看護士に連絡し受診する。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会にて理解を深る。又、一覧表にして全職員が周知できる様にする。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・薬の変化があった時には、バイタルチェックを行う。 ・カーデックスにて服薬一覧表を作成する。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・食材や飲み物で工夫している。 ・腹部マッサージなども行っている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・食材や飲み物で工夫していく。（例：センナ茶で対応している方もいる）
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後の口腔ケアは利用者に合わせた声かけ、介助を行っている。 ・週2回の義歯洗浄している。（預かり抵抗ある方は目の前で洗浄を行う） 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者に合わせた声かけ、介助していく。 ・週2回の義歯洗浄を行っている。（預かりに抵抗のある方は目の前で洗浄を行う）
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内の管理栄養士に相談できるようになっている。献立表もチェックしてもらうようにしている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・状態に合わせ、食事量、水分量のチェックを行う。 ・水分摂取量の少ない方には好きな飲み物（コーヒー等）をこまめに飲んで頂く。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会で勉強し、対応の徹底を図っていく。 ・手洗い、うがいは常に行う。 ・汚物の処理は注意して行う。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗いは常に心がけ、ペーパータオルを使用し、予防に努めている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・まな板やふきんは毎日、漂白している。 ・食材は使い切れる量を発注する様にしている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・冷蔵庫内は常に点検している。 ・夜間は漂白 (薄めた物) 液で冷蔵庫内を拭く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関まわりに草花を植え季節感を出している。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関や建物のまわりは明るくなるよう工夫していく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間 (玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・季節感のある飾り付けをする。 ・利用者に合わせてソファや畳の配置を変えて、過ごしやすい様に工夫している。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・常に、季節感を出す飾り付けをする。 ・玄関に季節の花を飾る。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・畳やソファにて過ごせるように工夫している。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・廊下に畳などを配置し、自由に過ごせる様に工夫している。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	・家族とも相談し、使い慣れた(馴染みの)物 や、写真などを持ってきて頂く。	○	・写真を使って説明する。(例:御主人が亡く なった事が理解できない場合等)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	・温度チェックは毎日行い、調節もしている。 ・トイレ使用後は換気を行っている。	○	・状況に合わせて、換気を行う。 ・トイレや居室に消臭剤を置くなど工夫してい る。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	・本人に合わせてベッドの位置や家具の移動をし ている。	○	・車椅子や歩行器等とり入れている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	・名札や目印となる物を設置し、混乱を防ぐ様に 工夫している。	○	・名札や目印を利用しつつも常に見守りを行って いる。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	・ベランダにて季節の花や野菜を作ったり、利用 者に水やり等をして頂く。	○	・利用者に花や野菜の水やり等を手伝ってもら う。 ・利用者に楽しんで頂く様に、収穫した野菜等を 使い調理していく。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)